

豊能町小中一貫教育等充実検討委員会 第4回教育環境部会 議事録要旨

- 1 日時：平成28年2月1日(月) 午後2時30分から午後4時35分まで
- 2 場所：豊能町役場 本庁 会議室
- 3 次第
  - 1) あいさつ
  - 2) 本日の趣旨説明（事務局）
  - 3) 意見交流
    - ①カリキュラム部会の報告
    - ②今後の小中一貫教育に関する方向性について
  - 4) その他

出席者：委員14名（代理含む）、事務局5名

議事

1) あいさつ

（会長）

カリキュラム部会で検討の途中ですが、教育環境部会の保護者の皆さんの意見をきくため、当初の予定回数を超えて集まっていた。よろしくをお願いします。

2) 本日の趣旨説明

（事務局）

教育環境部会は、当初3回の開催を予定していたが、様々な意見があり、まとめきれていない中、カリキュラム部会が始まる状況であった。これまでカリキュラム部会を2回開催した。本日、カリキュラム部会を代表して3人の委員に、現在の進捗状況について報告していただく。本日の意見交換は、意見が出やすいようにグループに分け、意見をいただきたい。

3) 意見交流

（会長）

まずは、カリキュラム部会の報告をお願いしたい。

（委員）

カリキュラム部会で話し合っているが、教員間でも様々な意見があり、一つにまとめるのは困難で、まとまりのない話になっている。6・3制を4・3・2制にするにも、学習指導要領がそうなので混乱が生じるのではないかと。様々な地域で小中一貫教育の話はきくが、始まったばかりでその効果がよくわからない中、どのように進めていけばよいのか迷っている。何のために行うのかをもっと理解しておく必要がある。今後、小中一貫教育が進むなか、指導や研究をどのように取り組めばよいのか。今から出来ることでは、小中が連携し交流を深めることである。どのような子どもに育てるのかをしつ

かりと見定めて教育の中身を考えていかなければならないと考える。

(委員)

何のために取り組むのかについて、小中の段差解消の話もあったが、高校進学、社会に出た時につまづくことが多いので、段差も必要という話になった。人数が減ることで、統廃合や小中一貫校になったとしても、今後更に減少し、1クラスになるのであれば意味がないのではないか。それでは何のためにするのか目的がはっきりしていないので、どうすればよいのか考えにくい。とりあえず、自分たちができることから取り組み、連携を進めていく。

(委員)

クラスの人数でできることが変わってくる。大きな学校なのか、小さな学校なのか描かないとカリキュラムの具体的な話になりにくい。6・3制の段差をなくすために4・3・2制という話もあるが、4・3・2制にしても、4・3の段差や3・2の段差が生じるので、段差解消するために4・3・2制に変えるというのは乱暴ではないかと思う。学習指導要領は、小学校用と中学校用で全く別のものとなっていて、教育の目的についても似てはいるが小学校と中学校で異なっている。6－3年制の学習指導要領で4・3・2制を進めることは大変である。4・3・2制にするからには効果をあげないといけなと思うが、それには時間を要する。アイデアがどんどん出るようなものではないと感じる。小小交流では、4小学校で学年部会を設けていて、先週、4校の3年生が東ときわ台小学校へ集まり交流の取り組みをはじめた段階である。

(事務局)

・補足だが、カリキュラム部会は2回開き、1回目は、東西のグループに分かれて意見交換をし、2回目は、教員のグループと、校長の所園長のグループに分かれ意見交換をした。

その中で、

- ・小中一貫教育の教育的価値をしっかりと認識しないといけない。
- ・今、できる連携をしっかりと取り組む。
- ・豊能町の特色を出すこと。
- ・豊能町の子どもをどのように育てるのか共通理解をすること。
- ・豊能町の6校の特色を活かしつつ、豊能町の教育を考えていくことが必要。

との意見であった。

(会長)

豊能町としての良さをどう出すのか。前回、どのようにシュミレーションするか。東西を一体化すると人間関係は広がるがデメリットもある。東西それぞれの文化の共通項を持ち、独自性を活かすのは難しい。小中連携をしたときのクラブ活動について、小学校から始めると中学校で強くなるが、クラブが選べないデメリットもある。それをカバーするために東西で交流することが必要である。運動会その他の行事等もなるべく小中合同で実施することによりスケールメリットが出るのではないかという意見もあった。学校がない地域は、人口の流入が少なくなることがあるので、予測では徐々に子どもが減るだ

ろうといくことだが、底をうっている地域もあるので、人口動態をみながら配置を考える必要があるのではないか。これから、様々なことを通じて学習、クラブ活動や人格形成などのメリット・デメリットを見ていく必要があるだろう。そのような意見であった。

最終的には、豊能町の特徴をどう活かすか、特徴がどのようなものか、良さがどこにあるのか、ということをしっかり見ていく必要がある。以上がカリキュラム部会での意見であったと思う。保護者の委員の意見をお聞きしたいと思う。

(保護者グループに分かれて意見交換を行う)

(事務局)

それではグループで出た意見を報告していただきたいと思います。

(委員)

西地区の学校を統合した場合に、東地区も含めるのか否かについて考えるときに、子どもの人数が少ないのはメリットもあるが、デメリットもかなりある。東地区では早ければ、こども園から中学校までずっと少人数でしかないので、先々を見れば、高校に入った時や、社会性とか、様々な人と出会う意味では、人数が多い環境の方が良いのではないかとの意見であった。ただ、交通や安全確保等で遠い地域の子どもの負担をしいられることなく平等にするには、設備などのハード面等を整えないと不都合が生じることになるのではないかと。良くも悪くも実施すれば、子ども達は柔軟に対応すると思うが、デメリットが生じた時に、学校や行政が誠実に対応する姿勢によって受けとめ方が違ってくるのではないかと。急いで一つにしなくても、一貫教育ということでは、まずは小学校間や中学校間で交流する機会は持てると思う。豊能町ならではのということでは、中学3年生での受験・進学で求められる力を想定して、6年生ぐらいからクラブ活動の工夫ができるのではないかと。必ずしも施設一体型でなくても今の状態でも進めていけるのではないかと。思う。

(委員)

保護者は少ない人数よりも多くの人の方が良いと思っている。そこで、何をしてもらえるのかと思うので、教育の町というのであれば、他市町村から見ると豊能町の特徴がはっきりとわかるような取組をしてもらえれば、周辺の興味をひき、人口が増える可能性もある。施設にお金をかけるのもわかるが、教育の中身である授業にお金をかけてもらいたい。

(委員)

高校での通学費は1人当たり年間15万円かかる。2人目の子どもが高校に入学する際に、引っ越し方もいる。豊能町の小学校や中学校に強みがあれば、引っ越さずにここに留まると思う。豊能町といえば、田舎で少し不便で、車がないと何もできない。もう少し住民全員で楽しめるものがあれば良いと思う。豊能町ならではのものがもう少しほしい。

(委員)

以前から同じような事は言われているが、なんら状況は変わっていないと思う。教育委員会だけではなくて町全体として考えてもらいたい。

(委員)

個人的には子どもを育てるには最高の環境だと思う。教育の質も、都会に比べてのんびりしているし、子どもを温かく見守ってもらえる。ただ、交通の便や、将来、高齢で車に乗れないようになるなら、家を借りて住み、子どもが出ていく頃に町を出て、都会のマンションの方が良いという人もいる。

(委員)

複数の子どもがいる世帯が多いが、子育て世帯が少なくなっている。子育てするにはスペースも含め余裕があり、メリットもあるのではないかな。それが、高校、大学で費用がかかるので、そこをなんとかすれば人口流出を減らすことができるのではないかな。

(委員)

高校の時に学費等の負担に耐えられれば出ていく人が少なくなるかもしれない。

(委員)

「地域に貢献する子ども」と町で言っても、高校で町外に出て、優秀なほど良い大学を目指して東京等へ行き、そこで就職となると、親だけが町内に残り、そのうち車の運転もできなくなり、病院へも行けないので町外へ転出というようになるのではないかな。

(委員)

豊能町に住もうと決めたのは自己責任もあると思う。子どもが中学校以降のことも考えて引っ越してきた。なので、行政の責任にして、救いを求めるのは少し違うと思う。お金がなくてもやり方はいろいろある。高校・大学のお金がかかる時に、親がパートをして学費に充てるなど、親のやり方にもよると思う。解決方法は一つではなく、広く考えてみてもよいのではないかな。町にお金がないのは税収が少ないからで、税を納める環境が教育とリンクしていないと、住む人を誘致するだけでは何も変わらないと思う。教育環境と親が働ける環境が整っているといえれば、働きたいと思う人はたくさんいると思う。教育を受けてきた方はたくさんいるので、学校のアフタースクールプログラムを行政で考えていただきたい。

(委員)

例えば絵が上手な子どもがいても、学校は決められた事を平等に教えるので、ずば抜けた才能を伸ばすことはできない。何か自分の得意なものを見つければ、自分にも自信がつき、勉強にもチャレンジしようと思うだろうから、学校の教室を利用してやってもらえればと思う。

(委員)

中学校のクラブに入らない子どもが増えている。上昇志向の子どもなら、少しお金をかけて遠征した

くても、学校ではできない。子どもをサッカーチームに入れているが、東ときわ台小学校がホームグラウンドだが、東ときわ台小学校の子どもは2名しかいない。他は光風台とか箕面森町等の子どももいる。クラブ一つにおいても多角的に見直さないといけない。

(委員)

最初のカリキュラム部会での報告では、難しいということだけが印象に残る。教育像や子どもを育てる概念に集中していると、学校の文化や小中の違いの話が進まない。小中学校では、いじめがなく、給食がよく、先生方がしっかり授業をしてくれていればよく、教育の概念を先に話をするので難しいことになっている。いっそのこと、逆に先に組織をにつくってみて、難しい事やできなかった事は、後から調整していけばよいと思う。

(会長)

小学校ごとに行っていた研究会を、小学校全体で学年や教科で行い、中学校にも入ってもらったりして、まずは教科の組織づくりを先生方が取り組まれている。2年ぐらい前から、学校の行事を合同で行う話もしている。今の段階からできることとして、カリキュラムについて検討していただいている。特色のある授業として、この学校にきたらこんな授業が受けられるというものをしっかりと出せたらと思う。

施設のあり方に関しては、東地区と西地区を一つにすると、通学等で子どもの負担が大きくて、特に小学校は、今は一つにするのは難しいのではないかと。

(委員)

長い目で見ると、東地区の子どもが減るので一つにする方が良いのではと思う。

(委員)

交通の安全が確保されれば、子どもは友達が増え、できることも増えて喜ぶのではないかと。

(委員)

西地区で一つになれば、東地区が寂しくならないように、子どもの声がなくなならないような跡地の利用方法を考えていただければと思う。

(委員)

バスをうまく走らせて、中学校のクラブが毎日グラウンドや体育館を使用できれば上手くなると思う。

(会長)

徐々に一緒になることについてはメリットがある。保護者の方は、子どもの人間関係が一番の課題である。今の状態でも東西の交流がもっとあれば人間関係が広がり、今の凝り固まった状態から脱却できるのではないかと。施設がどうなるにせよ、交流はどんどん進めてもらいたい。

(委員)

PTAでも小学校と中学校で行事の連携に取り組んでもらうように引き継ぎたいと思っている。

(会長)

今後、カリキュラム部会を開いた後、全体会を開きたい。答申の骨子に関しては、今日の意見を踏まえ、町の目玉となるような教育を入れること、今からできることとして、組織づくりをして共通でできることを増やし、すぐ動けるように人間関係の幅を子ども間でつくっておくことなどが挙げられると思う。また、バスの話が出たので、離れた所を効率よくつなげるような整備が何年かの内にできて、高校にもつながればよいと思う。

(副会長)

不登校や中学校の段差の解消の対応として、小中連携や小中一貫の取り組みが始まったが、ここでの議論は、そこを超えて小中が連携して豊能町ならではの教育で何ができるのかという、小中の9年間一貫して豊能町の教育という視点で学校教育を見ている。小中連携は、全国で様々な取り組みが行われているが、一つの方向として、地域の方が関わるのが新たな段階である。「豊能学」とか地域・ふるさとのことをしっかり勉強して、一旦は町から出るかもしれないが、また戻ってきて、地域を担っていくような、地域に根差した生き方の問題になっている。施設がどのような形になるにせよ、豊能町で育つ子ども達にどのようなライフスタイルをとってほしいのか、スケールの大きな取り組みになっていると思う。今後、具体的に先生方でつくるカリキュラムに期待している。

4) その他

(今後の予定)

- ・第1回カリキュラム検討部会 2月22日(月)開催予定
- ・第2回全体会 3月4日(金)開催予定。